



サクランボを手早く選別！

【有限会社天童化成 滝口 好 代表 / 天童市】

スケールの確認作業が不要

サクランボ出荷規格の大きさに合わせて手早く選別できる装置が開発された。動力を使わないコンパクトなサイズで手軽に移動でき、手作業ながら効率化が図れると話題になっている。開発したのは、特殊洗剤の製造などを行っている。天童市の有限会社天童化成、滝口好代表（65）。メーンの洗剤製造の傍ら、これまでもサクランボのバック詰めを容易にする補助器具など、アイデア器具を生み出してきた。



サクランボ選別作業台「早わけくん」。出荷基準に合わせてステンレス線をセットして使う。

サクランボの出荷基準は、直径16^{mm}以上のSサイズから直径28^{mm}以上の3Lサイズまで5段階。ベテラン農家なら見ただけで選別できるが、ちょうどサイズの境目になるような大きさのものは、穴の開いたスケールを通して一つ一つ確認するため、手間が掛かる。また、長時間作業を続けていると、目の疲れから選別ミスを引き起こしやすい。

新たに開発した選別作業台「早わけくん」は、縦60^{cm}、横70^{cm}の箱型。作業台に傾斜が付いている。手前には基準に合わせた幅のステンレス線がセットされ、その幅を通り抜けるとそのサイズの箱に落ちる仕組み。引っかかったサクランボは、手で移動させ、次の幅を通す。スケールを通しての作業確認が省略できる仕組みだ。作業台が斜めのため、一つ一つがよく見え、規格外のサクランボもチェックしやすい。

サクランボの選別は、ほとんどの農家でお母さんたちの作業。電気などの動力を使わず、重さも5^{kg}と軽量の装置は、故障の心配が無く女性でも持ち運びが簡単だ。価格も4万5千円（税別）と、モーター式の選別装置



「早わけくん」を開発した滝口代表。「人や地域とのつながりの中から生まれた製品」と話す

に比べ導入しやすい。

装置のアイデアは、近所のサクランボ農家との何気ない会話から生まれた。

昨年3月に初めて販売。今年は購入者の意見から改良を加え、横に渡したステンレス線に縦に渡した線を重ね、一つ一つが一度に穴を通るような形にした。作業効率は若干落ちるが、大きさの選別は、より正確。サクランボの収穫は短期間勝負のため、この時期はアルバイトを雇う農家も多い。経験者もいるが、改良後の装置を使えば、初心者でも手早く選別ができる。

このステンレス線は取り外しが可能なため、ベテランは横だけ、慣れていない人は縦・横の線を重ねて、また、両方を外して全くの作業台として、3通りの使用が可能だ。

滝口代表は「県や地域によっては基準が異なるので、要望があれば線の幅を調節して制作します」と話している。

〇問い合わせ先＝(有)天童化成 (TEL.023-653-8476)